

第 5 回社員総会議案

平成 28 年 6 月 10 日

事	業	報	告
会	計	報	告
監	査	報	告
理	事	選	任
事	業	計	画
収	支	予	算
会	費	徴	収
		方	法

一般社団法人 日本支承協会

東京都中央区京橋 1 丁目 1 番 1 号

電話 03 (3272) 4476 (代)

平成27年度 事業報告

自 平成27年4月1日

至 平成28年3月31日

1. 会員の状況

平成27年度内会員の異動

退会 1社

入会 0社

平成27年度末現在の会員 26社

2. 会議

A. 理事会

- ・第8回 平成27年6月5日
 - 1) 第4回社員総会議案審議
- ・第9回 平成27年6月5日
 - 1) 会長・理事長・業務執行理事選任の件
- ・第10回 平成28年1月29日
 - 1) 平成27年度上期事業報告
 - 2) 平成28年度暫定予算承認の件

B. 総会

- ・第4回社員総会 平成27年6月5日
 - 1) 平成26年度事業報告並びに収支決算の承認を求める件
 - 2) 理事・監事選任の件
 - 3) 平成27年度事業計画に関する件
 - 4) 平成27年度収支予算の承認を求める件
 - 5) 平成27年度会費徴収方法の承認を求める件

3. 運営委員会の活動

- 1) 毎月1回（但し、8月を除く）定例会議を開催、総会及び理事会の方針に基づき、重要事項の審議、並びに処理にあたった。
 - (1) 平成28年度の事業計画や収支予算の策定を行った。
 - (2) 平成28年度の会費徴収（案）について審議、策定を行った。
 - (3) 国交省の平成28年度「道路ふれあい月間」（8月1日～31日）の主旨に賛同し協賛することを決めた。
 - (4) 参議院候補足立としゆき氏（前技監）を支援することを決めた。

- (5) 収益事業の一環として、関門橋現場支承の調査・分析業務及びNEXCOエンジニアリング北海道の支承の現場調査・点検指導業務を受注することを決めた。
- (6) 支承の保全技術統一基準を作成するための補助金を申請する事を決めた。
- (7) 日本支承協会主催による支承講習会を札幌及び福岡で開催する事を決めた。
- (8) 1月の理事会のあとに、新春セミナーを会員向けに開催する事を決めた。
- (9) 西日本高速道路(株)と「災害時協力協定」を結ぶことを決めた。
- (10) 社員総会時に会員セミナー(支承部の点検・診断・維持管理技術について)を実施する事を決めた。

4. 各委員会報告

A. 技術委員会報告

1) コンパクト型BP・B支承の標準化検討

平成26年度までに実施した九州橋梁・構造工学研究会(KABSE)との共同研究により得られた「BP・B支承の設計法見直しによる合理化(コンパクト化)」に関して、実構造物への適用段階に進めるため、標準化(構造細目の吟味・設計法の確立・標準図の整備)を行い、支承交換工事を念頭においた7タイプの反力条件での検討を実施した。

2) 土木学会支持機能検討小委員会の活動

土木学会鋼構造委員会に設置された表記小委員会に参画し、平成20年5月には「道路橋支承の改善と維持管理技術」(鋼構造シリーズ17)を発刊した第1期活動を実施したが、平成25年度より第2期の活動として最新知見を取り込んだ改訂版の発刊に向けての活動を実施している。本委員会には、幹事長に姫野委員長、WG主査に朝倉委員が任命され、比志島理事長、原田委員、小南委員、山崎委員、小澤委員の合計7名が参加し、活発な議論を展開している。平成28年5月に報告書を出版し、5月・6月に東京・大阪で講習会実施予定。

3) 道路橋支承便覧・道路橋示方書改定に向けての議論

平成24年の道路橋示方書発行に伴う支承便覧の改定作業(日本道路協会:耐震設計小委員会支承便覧改定WG)に参画し、各分野の専門家との活発な議論を積み重ねてきている。昨年度までに原案は完成していたが、建築用免震ゴム支承で発生した性能試験上の問題点をふまえた品質管理手法の見直し作業を進めている。

また、次期道路橋示方書改定の骨子となる部分係数設計法への移行に向けた議論(部分係数法WG)に参加し、支承設計法の改定についての議論を実施している。

4) 関門橋大規模補修検討業務における実験受託

西日本高速道路(株)所管の関門橋(1973年竣工)における大規模補修事業に関して、検討会幹事の(株)ドゥユー大地より実験の実施および検討会への参加要請を受け、関連業務の受託契約を締結の上、検討を進めている。本検討業務には、過年度より、オイレス工業、川金コアテ

ックの2社が支承メーカーと参加していたため、本年度は、両社から技術委員派遣の形態により対応を実施している。

業務内容は、B P・B 支承におけるすべり材の長距離摺動（累積100km）時の摩耗特性評価が中心であり、今後の維持管理におけるすべり材交換時期の把握を目的としている。

5) 国土交通省の定期点検要求に対する対応（維持管理マニュアルの作成作業）

5年に1回の近接目視を要求している国土交通省の方針を受け、今後、支承部における点検・診断・対策に関するニーズは急速な高まりを見せることが予想される。そこで、技術委員会では、日本支承協会が提案する実務者を対象とした「維持管理マニュアル」の作成に着手している。

この具体化に向けて、「平成27年度中小企業活路開拓調査・実現化事業（中小企業組合等活路開拓事業）」の補助金を受け、外部専門家として、九州大学：大塚名誉教授に参加いただき、調査委員会、試作委員会の2つの体制で検討を実施した。調査委員会では、広く支承点検実務の実態を把握するべく、道路管理者およびコンサルタントに向けてのアンケート調査を行い、また、試作委員会では、既設支承の残存性能を把握するため、供用後40年が経過した橋梁から撤去支承の提供を受け、載荷試験を行った。

6) 高速道路会社との技術連携

・NEXCO の構造物施工管理要領

すべり面の平坦度規定が実状に合致していない問題点が発覚し、この見直しに向けた検討を実施した。

・首都高速道路の橋梁構造物設計施工要領

平成27年6月改定の要領書詳細について、ヒアリングおよび運用に関する議論を行った。

・NEXCO エンジニアリング中国とのメンテ・点検ツールの検討

点検時に施工可能な簡易補修（延命措置）に関する意見交換およびツール提案等を実施した。

・NEXCO の大規模修繕事業を想定した支承検討会の発足

NEXCO 西日本主催により、京都大学の高橋先生を委員長とするB P 支承の性能評価・見直しに関する検討会がスタートし、約3年を目処に成果とりまとめを進める。

7) ゴム支承協会技術委員会との合同会議の開催

道路橋支承便覧改定に関する議論などを通じて、ゴム支承協会技術委員会での議論に参加し、様々な意見交換・交流を実施してきている。

8) 現場調査・講習会への対応

関係団体の依頼により現地調査および講師として技術委員の派遣を実施している。

4月16日 : NEXCO 北海道支社講習会（手塚、和田）

4月17日 : NEXCO エンジニアリング北海道講習会（石山、和田）

10月16日 : 建設コンサルタント協会関東支部講習会（朝倉）

11月 9日 : NEXCO エンジニアリング北海道「富浦川橋」既設支承調査（朝倉）

12月21日 : 埼玉県道路メンテナンス会議講習会（姫野、和田）

B. 市場調査委員会報告

1) 橋梁受注情況（市場動向）

- (1) 一般社団法人 日本橋梁建設協会・調査
今年度 235, 000ton （対前年度比 105%）
- (2) 一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会・調査
今年度 228, 800百万円（対前年度比 133%）

2) 支承講習会実績

- (1) 4月16日 NEXCO 北海道支社にて実施した。参加者 60名
- (2) 4月17日 NEXCO エンジニアリング北海道にて実施した。参加者 40名
- (3) 9月23日 建設コンサルタンツ協会関東支部にて実施した。参加者 130名
- (4) 12月21日 関東地整大宮国道事務所にて実施した。参加者 100名
- (5) 12月予定 建設コンサルタンツ協会中部支部は延期になった。

3) 収益事業

- (1) NEXCO エンジニアリング北海道からの要請にてピン・ピンローラー支承の現場調査・点検業務指導を受託した。

4) 中小企業補助金交付事業

- (1) 支承の保全技術統一基準作成のためのアンケート調査・ヒアリング調査を実施した。
実施先（青森・秋田・岩手・新潟・愛知・広島・大分・宮崎・沖縄等）

5) 橋梁市場展望

ここ数年の受注状況に大きな変化はなかったが、平成27年度は対前年度比大幅プラスのPC業界に対して小幅マイナスの鋼橋業界と展開した。東日本大震災の復興関連工事もようやく橋梁業界に寄与し始めたが、国交省関係のみでその他の工事が明確でなく、当初よりも長期間に亘るものと心配される。

人手不足や一部資材の値上げ等が影響しており、工事は発注したいけど受注業者がない状態もあり地域によって明暗が分かれる。

安倍内閣は、平成28年度上半期に公共事業予算の80%を発注せよと国交省に指示しており景気の停滞解消に期待できる。

また、4月14日から起きた一連の熊本地震では多数の橋梁に被害が出ており支承部も多大な損傷が発生している。

安倍内閣は、迅速に補正予算の作成を指示し予備費と合わせ1兆円規模となる予算を熊本地震災害に投入予定であり、今後の展望に期待したい。

C. 保全委員会報告

- 1) 若返り工法、グリスアップ工法のカタログ内容の検討（担当：大東金属）
特殊防錆グリスの特質（非乾燥、非凝固性）を強調するよう文言の修正等を行う。
※修正後2, 000部の印刷とホームページへの反映を決定する。
- 2) 品質管理の仕様規定の確認（担当：川金コアテック）
 - ・封孔処理：ヨウシャ・プライマーを削除し、カーボマスチックに決定する
 - ・オプション仕様のふっ素樹脂：ジャパンカーボライン製で検討する。
 - ・仕様規定の書式は、書式2で決定する。
- 3) 金属溶射（ZnAl、AlMg）供試体の塩水噴霧試験（担当：ショーボンド建設）
10,000時間の試験が10月完了予定より12月に延びたが無事終了した。
試験結果は、何れの供試体とも目立った変化なく良好な状態であった。
- 4) AlMg 溶射について
NEXCO 西日本の2回の封孔処理規定対し、2回仕様での見積りを決定したが、塩水噴霧試験結果を検証して問題がなければ、1回仕様を協会仕様として推奨していく予定。
- 5) 溶射現場見学会の開催
 - (1) 阪神高速技術（株）の技術部の人たちを招いて、7月28日（火）13:00より滋賀県大津市の名神高速道路 蟬丸橋にて現場見学会実施したが、大雨により中止。
 - (2) 9月28日13:30より国道161号 坂本高架橋にてBPA支承の金属溶射見学会を阪神道路技術の技術部長他を招いて実施した。
- 6) 保全委員交代について
 - (1) 石井氏（ノナガセ）より鈴木氏
 - (2) 山崎氏（ショーボンド）が新たに加入して委員長に就任して緑川氏は副委員長に就任。
ショーボンド建設は当面委員2名体制にて活動予定。
- 7) 平成27年度施工実績

国土交通省	422基	（前年度	316基）
都道府県	515基	（	”
市町村	417基	（	”
NEXCO	171基	（	”
その他	60基	（	”
計	1,585基	（前年度	1,365基）

D. 広報委員会報告

- 1) 4月より、(株)ノナガセ-高原氏から高道氏へメンバー交代。
- 2) ネクスコ東日本(株)北海道支社における支承講習会を実施。
- 3) 協会誌「かなめ」No.19を平成27年末発刊に向け記事内容の検討を毎月の委員会にて実施。
姫野技術委員長との協力のもと、橋のある風景でベトナム国ニャッタン橋の写真と執筆を(株)IHIインフラシステムよりデータ受領。
- 4) 「かなめ」No.19へ執筆依頼。
 - (1) 京都大学-高橋准教授へ巻頭言の原稿を受領。
 - (2) 国立研究開発法人寒地土木研究所-寒地構造チーム-佐藤主任研究員へ技術編の原稿を受領。
- 5) 5月に京都第二京阪道路の久御山ジャンクションを見学。
- 6) 協会誌「かなめ」No.19を12月末に発刊。関係客先約1,500件宛に送付。
発刊まで毎月の委員会で編集内容を確認し、各社分担して修正作業を実施。
- 7) 平成28年1月より「かなめ」No.20発刊に向け記事内容の協議を始める。
- 8) 平成28年1月より、オイレス工業(株)-森岡委員長から関根委員長へメンバー交代。

E. 当協会の関連機関

公益社団法人	日本道路協会
一般社団法人	日本橋梁建設協会
一般社団法人	プレストレスト・コンクリート建設業協会
公益財団法人	高速道路調査会
一般財団法人	橋梁調査会
	日本鑄鍛鋼協会
	全国土木部長会